

イサク

聖徒たちと歩む聖書 ~17~
イサク

「踏みとどまって得る恵み」

創世記26章 二代目イサクの生涯

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. イサクの生涯

～誕生、結婚、息子の誕生～

II. 平和の人イサク

～創世記26章から～

III. まとめと適用

～イサクのように聴き従おう～



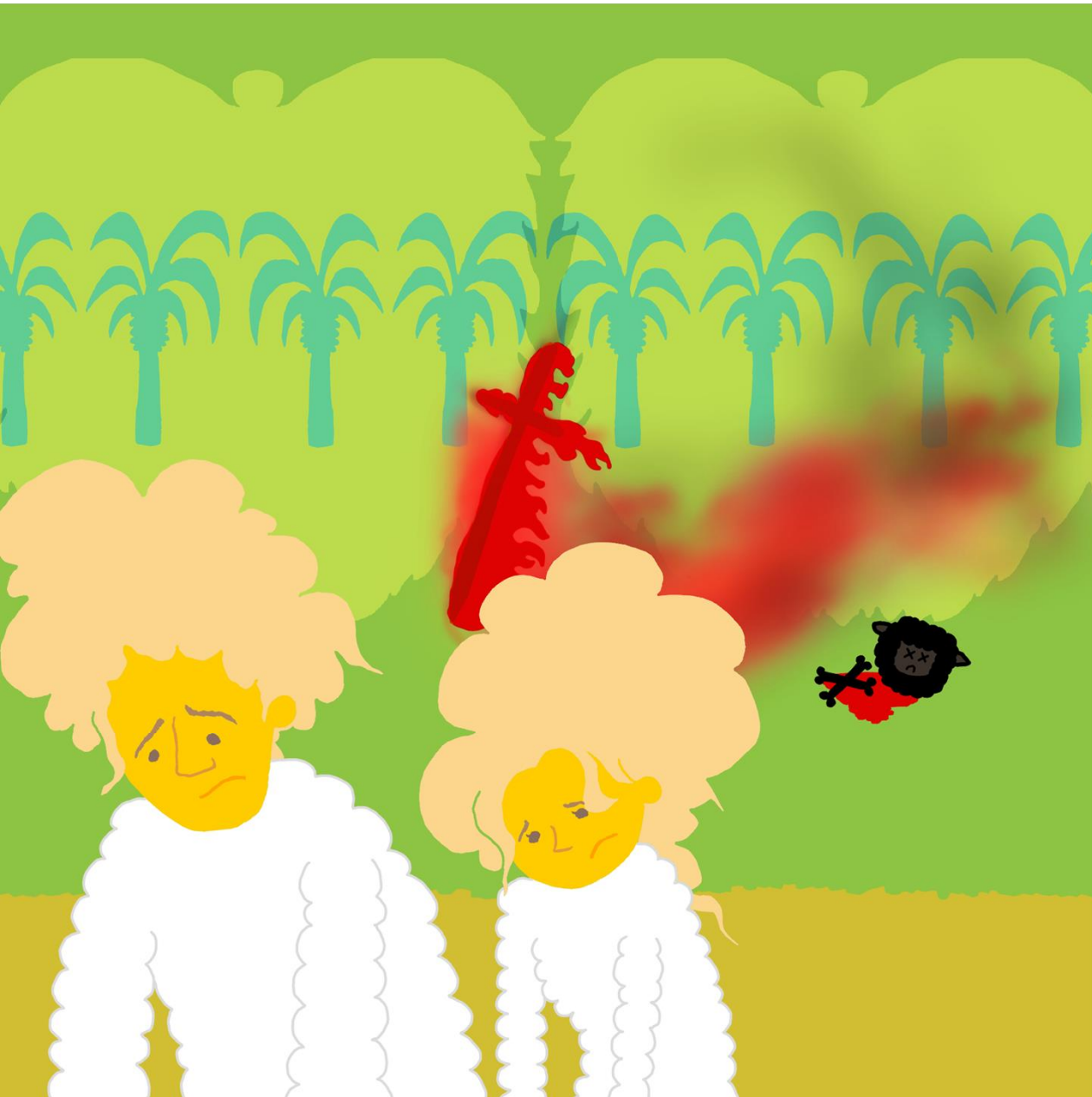
0. ふりかえり





世界の管理を任されていた
人間は、
神との約束を破り、
善悪を知る木の実を
食べてしまった。

**【最初の契約・
エデン契約の破棄】**



人間が罪を犯した瞬間、
神との関係は断絶された。

人間は死と滅びに陥った。

人は、エデンの園を追われ、
労働と出産の苦しみを
味わうようになった。

動物の犠牲により、
かろうじて、
神とのつながりは保たれた。

【アダム契約】



しかし 神は人を見捨てず
メシアを送ると約束された。

創世記3:15

「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

【最初のメシア預言】

人間は、罪を重ね、殺人を犯し、悪霊と交わった。
大洪水の裁きで、楽園だった世界は完全に壊れた。



神は、警告を聴きいれ、箱舟を造り、
生き残ったノアと、次の約束を結ばれた。

【ノア契約】



その後、人間は、再び増え広がり、国を築いた。さらに罪を重ね、巨大な塔を築き、自ら神になろうとした。神は、人間の言葉をバラバラにし、人間全体で大きな罪を犯すことのないようにされた。



【創世記11章までを振り返る】

■三つのターニングポイント

①エデン契約の破棄

善悪の知識の実を食べ、神の信任を得るテストに失敗!!
地は呪われ、罪と死が、人類を支配するように。
アダム契約を結ばれ、神は、**人間の良心**に世界を委ねた。

②大洪水の裁き

殺人、神への反逆、悪との交わりの末の大洪水の裁きの後、
ノア契約により死刑が定められ、神は、**人間の組織**に委ねた。

③バベルの塔事件

またしても人は神に反逆。共通言語を失い、世界に散らされた。

【創世記11章までに明らかになったこと】

①人類は、たった一つの約束も守れなかった。



②人類は、**良心**によって、世界を正しく治めることはできなかった。



③人類は、**組織**によっても、世界を正しく治められなかった。

人類の良心も、組織も、世界を正しく治められなかった。
人間は、自分の努力で、神との平和を作り出すことはできない!!

では、いったい、どうしたら？ 人類の希望はどこに？

神は、名もなき一人の人、アブラハムを選んだ。

命令に従い、行き先も分からないまま旅だったアブラハム。

神は、アブラハムを祝福され、土地の授与と子孫の繁栄を告げ、その子孫から、全人類を救いに導くメシアが誕生することを約束された。

アブラハムは、神の約束を信じて、救われた。信仰によって義とされる。それが、聖書の救いの大原則!!



【アブラハムが信じたこと】

- ①神が、子孫を数えられないほど増やす。
- ②神が、約束の土地を全て与える。
- ③神が、人類を救いに導く。
- ④神は、約束を必ず果たされる。

■ アブラハムの地上生涯において、実現したのは、ごく一部にすぎなかった。

■ アブラハムは、神がこの世界を回復され、アブラハムを復活され、全ての約束を完全に実現される時が、必ず来ると信じた。



聖書の希望は、
終末的希望!!

【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

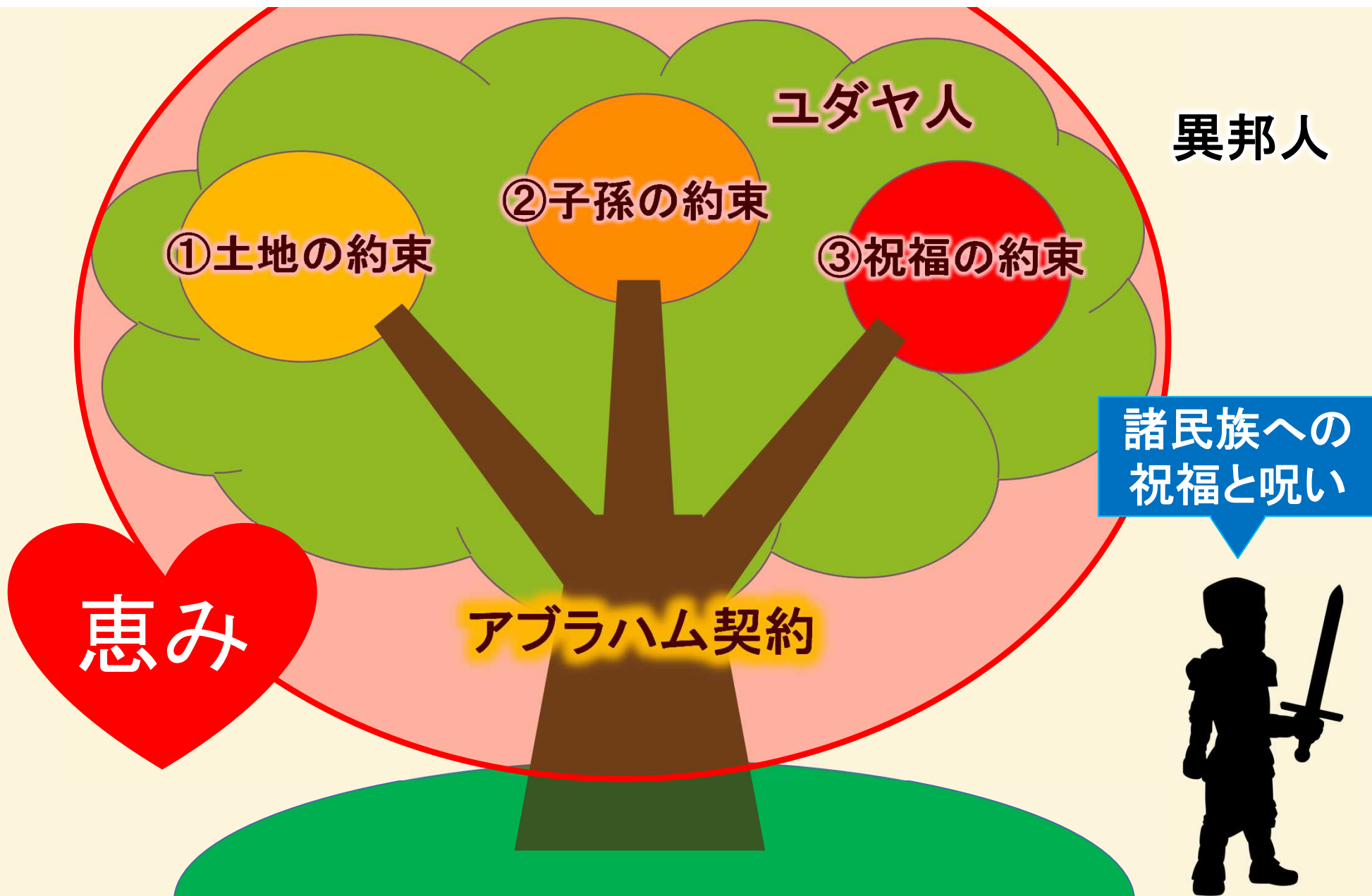
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

例)エジプト、ゲラルでの出来事。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】



I. イサクの生涯

誕生、結婚、息子の誕生



【二代目・イサクのプロフィール】

- ・アブラハム100歳の時に誕生。⇒ **約束の子**
- ・**アブラハム契約**を受け継ぐ。
- ・妻は、リベカ。
子どもは、エサウとヤコブ。双子の男子。
- ・享年180歳。(アブラハムより長生き!!)



■ イサクと同名の有名人と言えば？

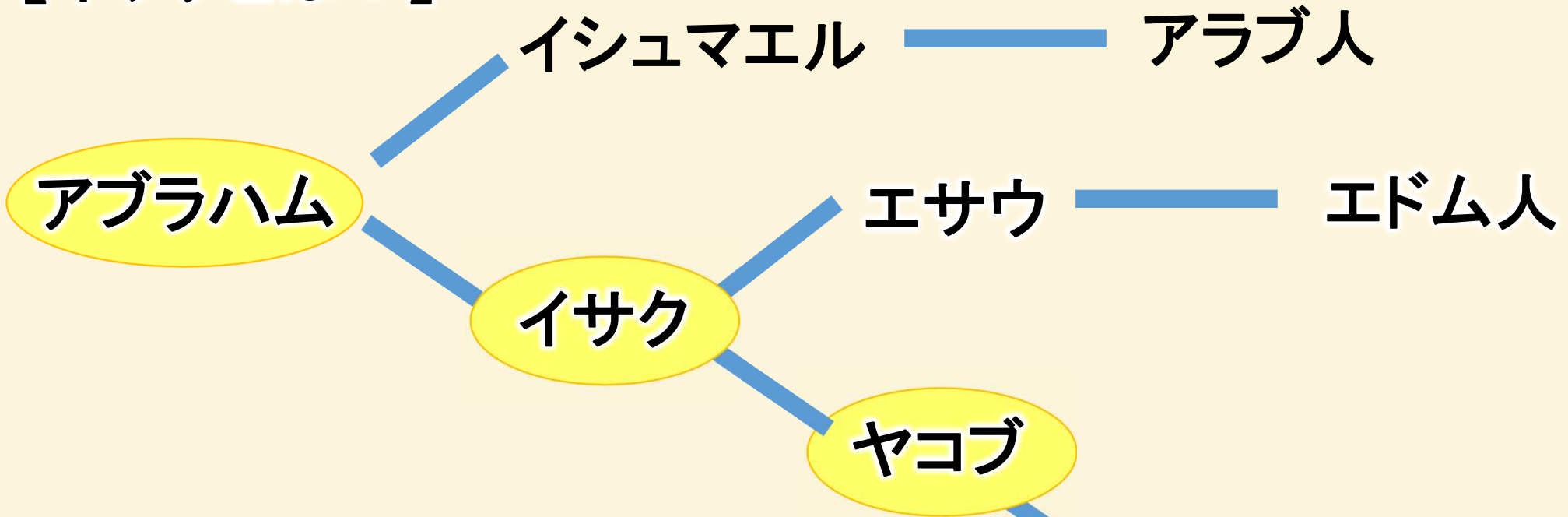
☆ アイザック・ニュートン

万有引力の法則を発見!!

信仰深い、神学者でもある!!



【イサクとは？】



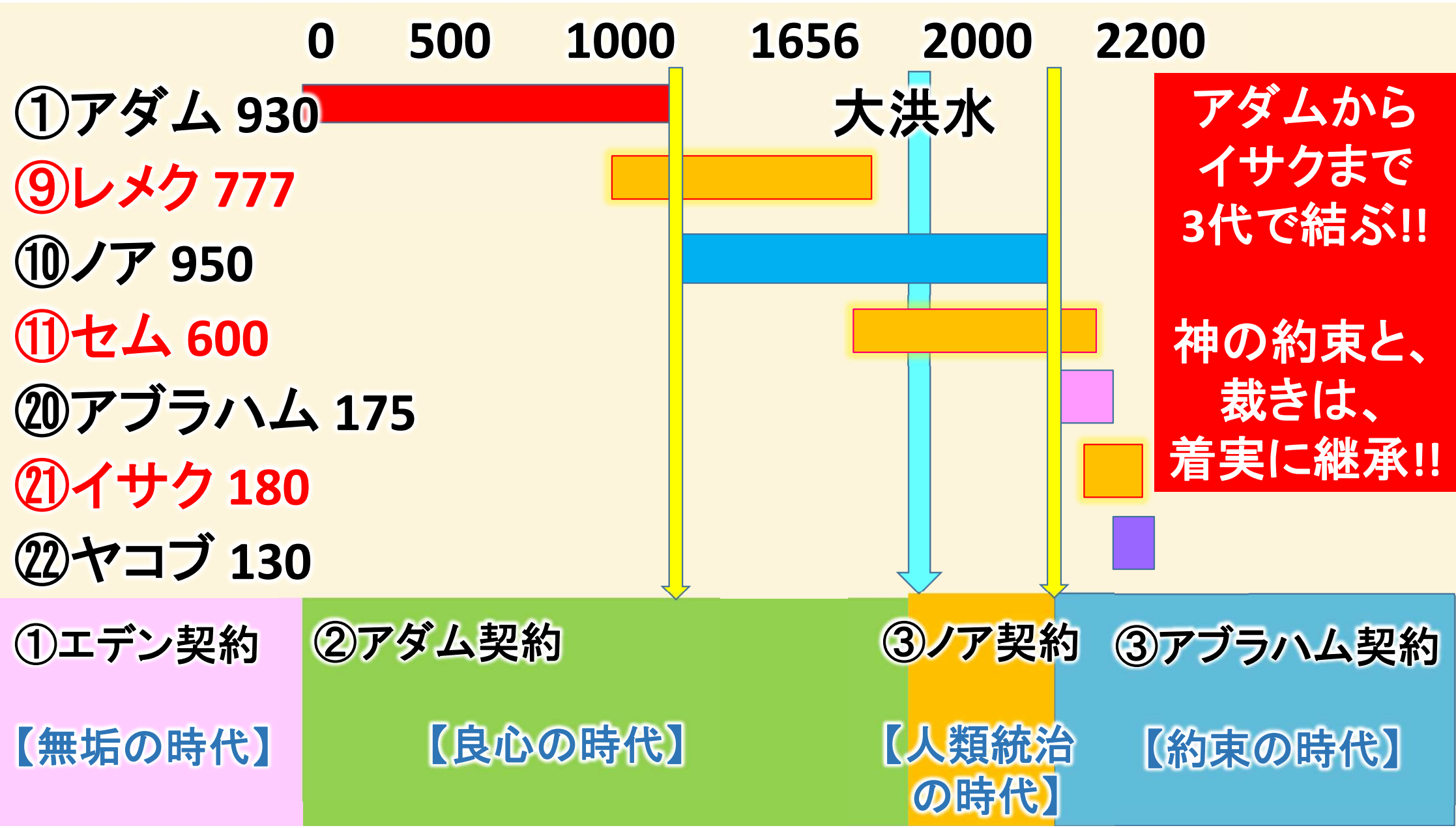
【聖書の神のフルネーム】

「アブラハム、イサク、ヤコブの神」

☆アブラハム⇒イサク⇒ヤコブの子孫が、
イスラエル

イスラエル12部族

メシア



【イサクの誕生】 創21:1～8

■ 約束の子イサクが誕生したのは、約束の地に来て25年後、アブラハム100歳。サラ90歳の時だった。

■ この歳で子どもをもうけるなど信じられず、二人が笑ったために、「イサク(笑い)」と、神が名付けられた。



【神に捧げられたイサク】 創22:8

- アブラハム130歳、イサク30歳の時、神は、モリヤ山(後のエルサレム)で、イサクを捧げるようアブラハムに命じられた。
- アブラハムが、イサクを縛り、刃を振り上げたとき、神が、その手を止めた。
- アブラハムの信仰が、行いによっても明らかにされ、認められた。
- アブラハム契約が、最終確認された。



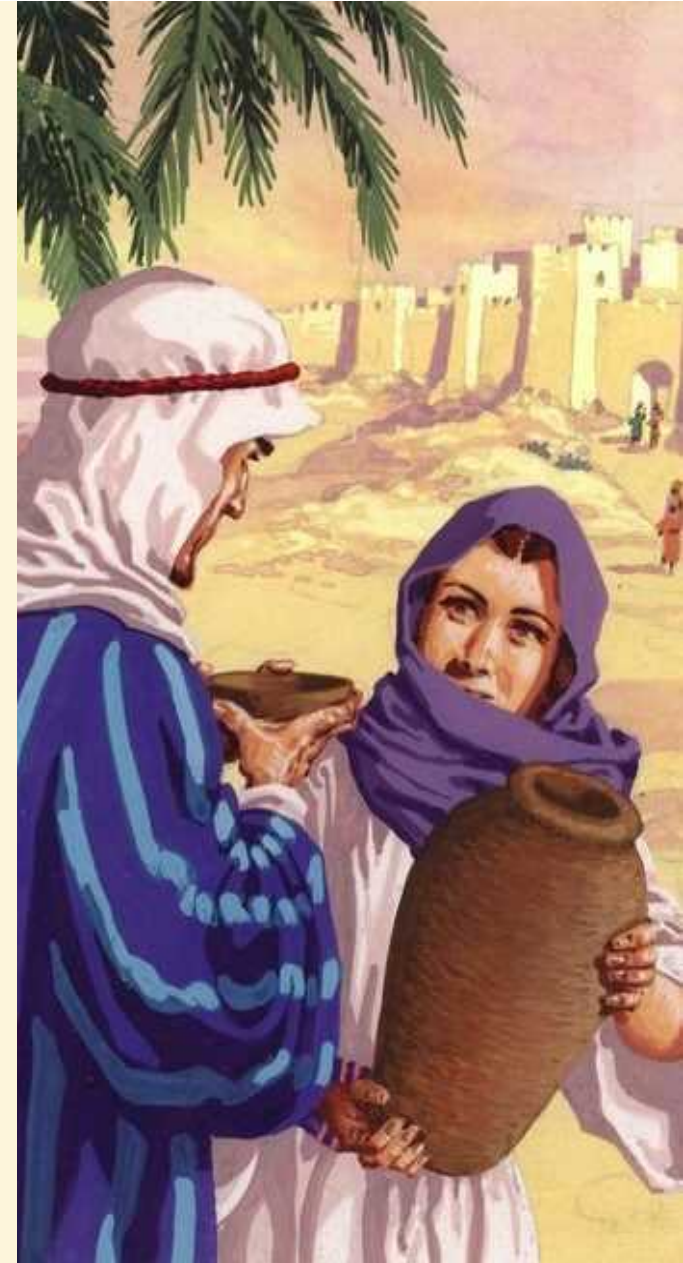
【イサクの行いに見るイサクの信仰】

- 父アブラハムに、素直に従って旅だった。
- 犠牲の動物のことをそれ以上たずねることなく、薪を背負って、だまって歩き続けた。
- 自らを焼くための薪を負って、山を登り、さらに、周囲からも大量の薪を集め、大量の薪を積み上げた。
- 老いた父アブラハムのなすままに、縛られ、自ら薪の上に身を横たえ、
- 自分の命も、思いも、すべてを主に委ねた。



【イサクの結婚】 創24章

- 老齡のアブラハムは、イサクの嫁探しのため、親族のいるハランへ、信頼するしもべ、エリエゼルを遣わした。
- 神に導かれ、出会ったのは、心優しき娘リベカ。リベカは、神の導きを信頼して、即、決心し、700kmを旅して、イサクの元に嫁いだ。イサクもリベカを愛した。
(イサク40歳、アブラハム140歳。)



【父アブラハムの死】 創25:9

■ 父アブラハムが175歳で死去した。イサク75歳。

■ イサクは、兄イシュマエルと共に、アブラハムの遺体を、マクペラの墓地に葬った。アブラハムが生涯で唯一手にした土地だった。

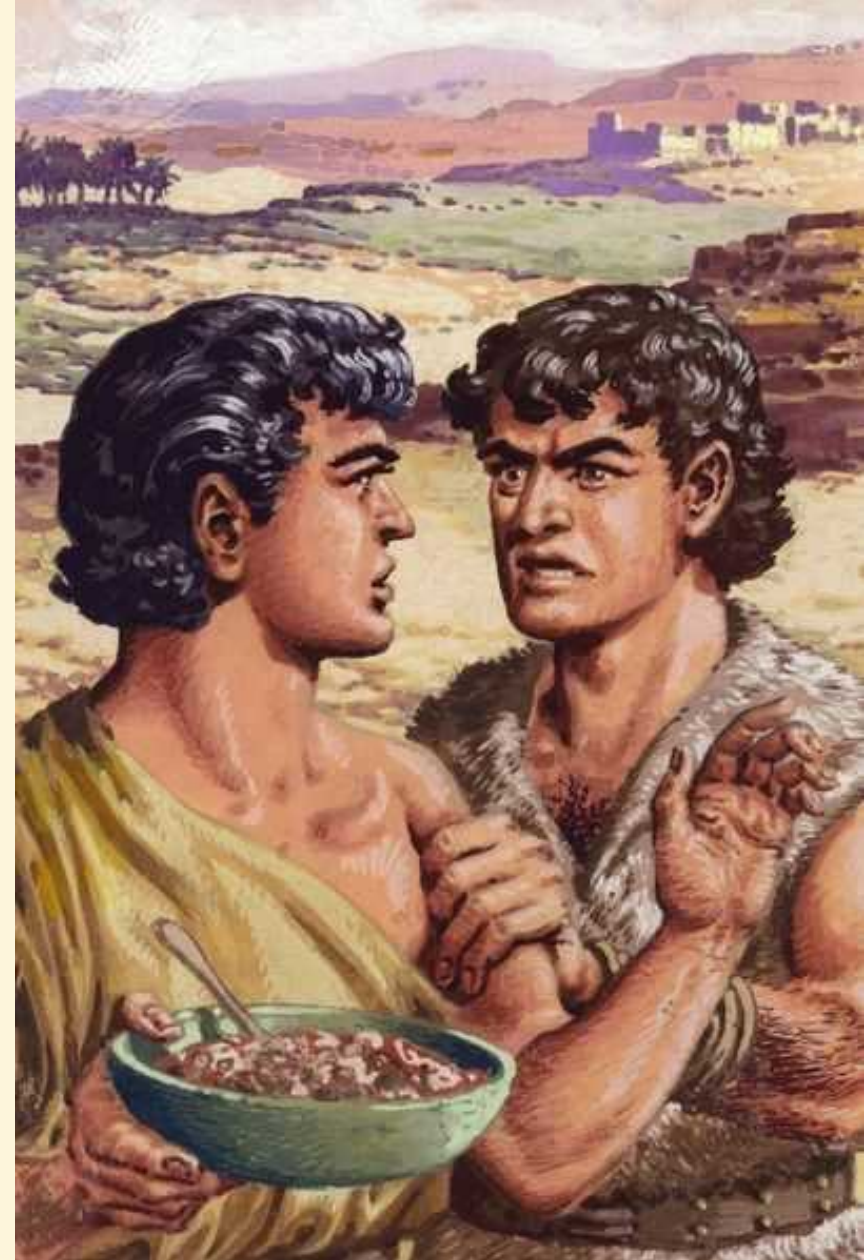
■ にも関わらず、アブラハムは、神の約束の成就を確信し、平安の内に神のもとに召されていった。

創 15:15 「あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。」



【二人の息子の誕生】 創25章

- 結婚から20年後、イサク60歳の時、リベカが双子を身ごもった。
- 胎内で争い、競うように生まれてきた正反対の気質の二人は、度々衝突した。
- 兄エサウは、猛々しい神への反逆者。弟ヤコブは、神の前に正しい人だった。
- エサウは、一杯の豆スープのために、大事な長子権をヤコブに明け渡した。
- 神は、胎内にいるときから、弟ヤコブを契約の継承者と決めていた。



Ⅱ. 平和の人イサク

創世記26章から



【飢饉】 創世記26:1～2

- 飢饉に遭い、父アブラハムのように、エジプトに逃れようと、ゲラルまで南下したイサクに、主が現れ、告げられた。
- 「エジプトへは下るな。
わたしがあなたに示す地に住みなさい。」
- 約束の地に、
「**行け**」と命じられた アブラハム
「**とどまれ**」と命じられた イサク



【イサクの過ち】 創世記26:8~9

- 美しい妻リベカが略奪され、自分が殺されるのではと恐れたイサクは、妹だと嘘をついた。
⇒ 父アブラハムとそっくりの嘘
- ある時、ゲラルの王アビメレクは、イサクがリベカと戯れているのを目撃し、妻だとさとる。
- アブラハム時代には、サラを妻に召し入れた王が、死にかけたの災厄を受けた。
- 王は、自分たちにも危害が及びかねなかったとイサクに猛抗議した。
- この事件のポイントは、イサクの過ちにも関わらず、神が介入して守ったということ。
⇒ イサクに続くメシアの系譜を守るため!!



アブラハムを守った
神の無条件契約が、
イサクをも守った!!

【祝福されるイサク】 創世記26:12

イサクはその地に種を蒔き、その年に百倍の収穫を見た。【主】が彼を祝福してくださったのである。こうして、この人は富み、ますます栄えて、非常に裕福になった。

■ 遊牧民から ⇒ イサクの代で初めての農耕。

※100倍の収穫 ⇒ 最初から最大の収穫!!

■ 神の命令に従い、約束の地にとどまった
イサクは、たくさんの祝福を受けた。



【ペリシテ人のねたみ】 創世記26:14～15

彼が羊の群れや、牛の群れ、それに多くのしもべたちを持つようになったので、ペリシテ人は彼をねたんだ。それでペリシテ人は、イサクの父アブラハムの時代に、父のしもべたちが掘ったすべての井戸に土を満たしてこれをふさいだ。

※ペリシテ人 ...この地方の住民の総称。
後にイスラエルと激しく対立した
ペリシテ人とは、民族的に異なる。
例) ダビデと戦った、ペリシテ人ゴリアテ

■父アブラハムが掘った井戸がふさがれた!!
荒野では、殺人的行為。とんでもない妨害!!



【追い出されたイサク】 創世記26:16～17

そしてアビメレクはイサクに言った。

「あなたは、われわれよりはるかに強くなったからわれわれのところから出て行ってくれ。」

イサクはそこを去って、ゲラルの谷間に天幕を張り、そこに住んだ。

- 争わず、その地を去った、イサク。
- 神の命令に従い、約束の地にとどまりながら、にもかかわらず、放浪の身に!!

主に従う者には試練がある!!



【井戸掘りイサク】 創世記26:18～19

イサクは、彼の父アブラハムの時代に掘ってあった井戸を、再び掘った。それらはペリシテ人がアブラハムの死後、ふさいでいたものである。

イサクは、父がそれらにつけていた名と同じ名をそれらにつけた。

イサクのしもべたちが谷間を掘っているとき、そこに湧き水の出る井戸を見つけた。

■ アブラハム時代にも争いがあった!!(創21章)
アブラハムと当時のアビメレクの間にも
和平条約が結ばれていたが...、死後破られた！

■ 埋められた井戸だが、水脈は保たれていた!!
人の約束は破られても、神の約束は保たれる。



【再びの妨害】 創世記 26:20～21

ところが、ゲラルの羊飼いたちは「この水はわれわれのものだ」と言って、イサクの羊飼いたちと争った。それで、イサクはその井戸の名をエセクと呼んだ。それは彼らがイサクと争ったからである。

しもべたちは、もう一つの井戸を掘った。ところが、それについても彼らが争ったので、その名をシテナと呼んだ。

※エセク ...争う

※シテナ ...敵意。サタンと同じ語源。



【三つ目の井戸】 創世記26:22

イサクはそこから移って、ほかの井戸を掘った。その井戸については争いがなかったなので、その名をレホボテと呼んだ。そして彼は言った。「今や、【主】は私たちに広い所を与えて、私たちがこの地でふえるようにしてくださった。」

※レホボテ ...広いところ

■ 三度目の正直!?

ようやく安心して使える井戸を手に入れた!!



【アブラハム契約を受け継ぐイサク】 創26:23～25

彼はそこからベエル・シェバに上った。

【主】はその夜、彼に現れて仰せられた。

「わたしはあなたの父アブラハムの神である。

恐れてはならない*。わたしがあなたとともにいる*。

わたしはあなたを祝福し、あなたの子孫を増し加えよう。わたしのしもべアブラハムのゆえに。」

イサクはそこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った*。彼はそこに天幕を張り、イサクのしもべらは、そこに井戸を掘った。

* 恐れてはならない ⇒ イサクは恐れた!!

* イエスも「**インマヌエル**(神が共にいる)」と呼ばれる。

* 主の御名によって ...公の礼拝を献げたイサク。

祈りは、
個人的なもの

礼拝は、
公のもの

ヘブロン■

■ベエルシェバ

ゲラル



【アビメレクの再訪】 創 26:26～28

そのころ、アビメレクは友人のアフザテとその將軍ピコルと、ゲラルからイサクのところに来て来た。

イサクは彼らに言った。「なぜ、あなたがたは私のところに来たのですか。あなたがたは私を憎んで、あなたがたのところから私を追い出したのに。」

それで彼らは言った。「私たちは、【主】があなたとともにおられることを、はっきり見たのです。それで私たちは申し出をします。どうか、私たちの間で、すなわち、私たちとあなたとの間で誓いを立ててください。あなたと契約を結びたいのです。」

- 証人をそろえて、契約を結びに来たアビメレク
- 数々の妨害にも関わらず祝福されるイサクを見て、アビメレクは、イサクの神を恐れた!!



【和解に応じたイサク】 創 26:29～31

「それは、私たちがあなたに手出しをせず、ただ、あなたに良いことだけをして、平和のうちにあなたを送り出したように*、あなたも私たちに害を加えないということです。あなたは今、【主】に祝福されています。」そこでイサクは彼らのために宴会を催し、彼らは飲んだり、食べたりした。

翌朝早く、彼らは互いに契約を結んだ。イサクは彼らを送り出し、彼らは平和のうちに彼のところから去って行った。

※良いことだけをして ... 追放も妨害もなかったことに!!

※イサクとアビメレクは、相互に不可侵条約を結んだ。

■ イサクは、彼らの罪をゆるし、和解した。

同時に、明確な境界線を、彼らとの間に引いた。



【もう一つの井戸】 創 26:32～33

ちょうどその日、イサクのしもべたちが帰って来て、彼らが掘り当てた井戸のことについて彼に告げて言った。「私どもは水を見つけました。」そこで彼は、その井戸をシブア*と呼んだ。それゆえ、その町の名は、今日に至るまで、ベエル・シェバ*という。

*シブア ...誓い

*ベエル・シェバ ...誓いの井戸。

■現代のベエル・シェバ

都市圏人口50万。ネゲブ砂漠最大の都市。
学園都市、産業都市として、なお発展中!!





IV. まとめと適用
イサクのように聴き従おう

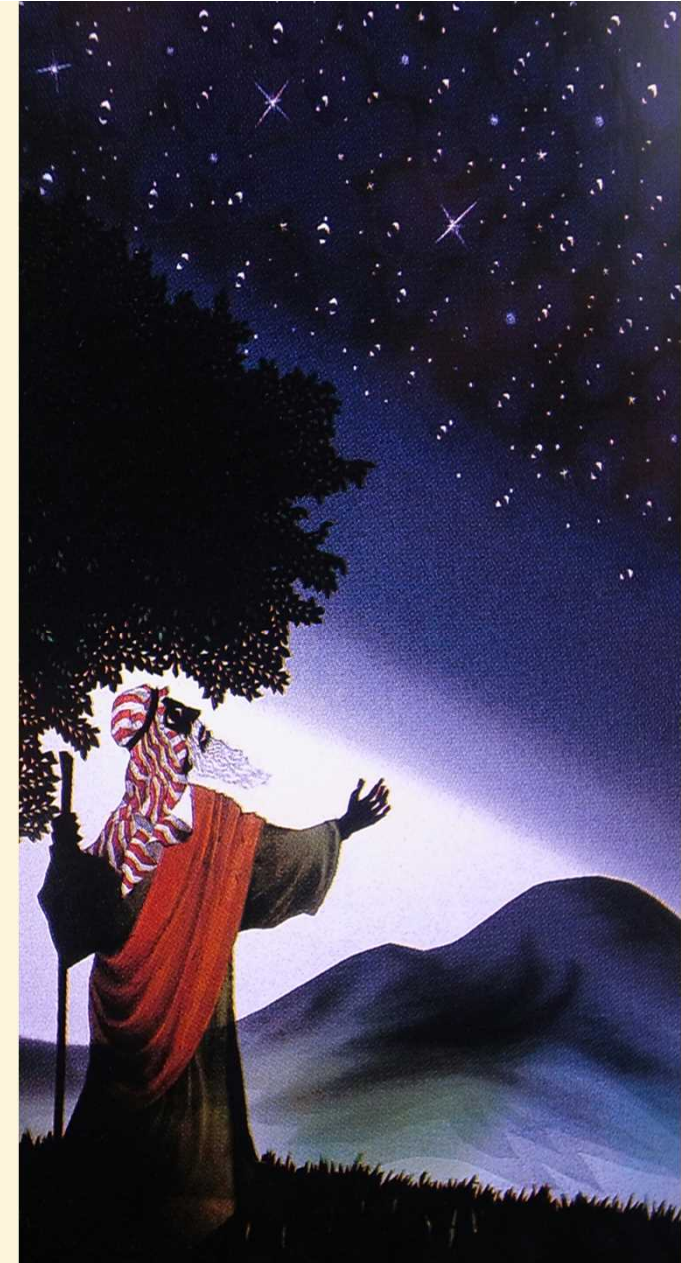
ネゲブ山地

【アブラハム契約の継承】 創世記 26:3～5

「あなたはこの地に、滞在しなさい。」 わたしはあなたとともにいて、あなたを祝福しよう。それはわたしが、これらの国々をすべて、あなたとあなたの子孫に与えるからだ。こうしてわたしは、あなたの父アブラハムに誓った誓いを果たすのだ。

そしてわたしは、あなたの子孫を空の星のように増し加え、あなたの子孫に、これらの国々をみな与えよう。 こうして地のすべての国々は、あなたの子孫によって祝福される。

これはアブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めと命令とおきてとおしえを守ったからである。」



【アブラハム契約の継承】 創世記 26:3~5

■ 神がイサクに命じ、約束したこと。

- ① 神がイサクと共にいる。
- ② イサクを祝福する。
- ③ この国々をイサクと子孫に与える。
- ④ **アブラハムの誓いを受け継ぎなさい。**
- ⑤ 子孫を星のように増やす。
- ⑥ 子孫に、この国々(この地)を与える。
- ⑦ 子孫にメシアが誕生し、
すべての国々を祝福する。

神とアブラハムとの契約が、
継承者イサクをも守り導いた!!



【イサクが信じ、知ったこと!!】

- 奪われても、奪われても、争わなかったイサク
なぜ、そんなことができたのか？
- イサクは、「この地にとどまれ」、という神の命令に従った。
- イサクは、神に従う者に、神が与えられると信頼していた。
⇒ アブラハム100歳の時に誕生。モリヤ山での奉獻。
- イサクは、神が約束を絶対に守る方だと、身をもって知っていた。
⇒ ゲラルでの過ちにも関わらず、妻リベカと共に守られた。
⇒ 豊かに実った作物。奪われても与えられた井戸。

【イサクのように、主に聴き、従う人になろう!!】

■ イサクは主を信じ、「とどまる」という行いを通して信仰を明かした。

■ アブラハムは、エジプトに降ってしまったが、
イサクは、主に従い、神の契約に堅く立ち、
約束の地に最後までとどまり続けた。
ここに、イサクの信仰がある。

■ イサクが果たした何より大きな使命は、信仰の継承。
アブラハム契約は、息子ヤコブに継承された。(危機もあったが!!)

■ 結果として、イサクは、アブラハム以上の祝福を与えられた。
⇒アブラハム・享年175歳。イサク・享年180歳。

【信仰の中継ぎという大役を果たそう】

■ イサクが直接登場するのは、長子権継承後の創世記28章まで。

⇒ ヤコブが120歳の時まで、イサクは生きていた!!

(※全世界を襲う7年間の大飢饉の前の、大豊作の時代に死去)

⇒ にも関わらず、イサクのその後は、一切記されていない。

■ イサクの役割は、中継ぎ。一番光の当たらない地味なところ。

しかし、それは、神ご自身が担われている役割の一つでもある。

⇒ 三位一体の神の助け手なる聖霊は、表に出ることはない!!

■ メシアに連なるイスラエルの系図の大部分は省略され、

生涯の詳細が記された人はわずかしかない。

■ しかし、主は、その一人一人に目をとめて、永遠に覚えておられる。

【聖霊の働きを覚え、助け手としての使命を果たしていこう】

- 主イエスが十字架の贖いと復活を成し遂げ、天に昇られた後、弟子たちに神の霊である聖霊が降った。それが教会の始まり。
- 教会時代の今、すべての信仰者の内に聖霊が住まわれており、助け手なる聖霊が、私たちを導き、変えていく。
- 目には見えない聖霊の働きを、いつでも心にとめていこう、
- そのために求められるのは、イサクのように、聴く人になること。



ゲラルの荒野にとどまり続け、イサクは神の声を聴き続けたらう。
神との静寂の時を持つ。

どんな状況の中でも、主の声に心を傾け、注意深く聞き取り、
真摯に主に従っていこう。

イサクのように、神に聴き、人に聴く人になろう。
主に聴き、従う者を、主は祝福される。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主(しゅ)を信賴(しんらい)して、約束(やくそく)の地(ち)に、
とどまりつづけたイサクのように、主に聴(き)き従(したが)い

主(しゅ)の約束(やくそく)の御言葉(みことば)の上に、

堅(かたく)く立(た)ち続(つづ)けることができますように。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈(いの)ります。

アーメン」